神奈川の海を守り、地域に貢献するライフセーバーによる情報誌

PIER no.10

Kanagawa Lifesaving Federation

RACE RESULTS

第4回 室内選手権大会競技結果

REPORT

全豪選手権大会 ビーチフラッグス植木選手3位

INFORMATION

'07下半期講習会予定

EVENT 2007.6.16-17

2007 KLF設立10周年記念ハワイアンライフガードによる ジュニアライフセービング特別講習会

VOL.10

神奈川県ライフセービング連盟に加盟のクラブ(順不同)

■横浜海の公園サーフライフセービングクラブ
■三浦海岸サーフライフセービングクラブ
■茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
■湘南ひらつかライフセービングクラブ
■鎌倉サーフライフセービングクラブ
■文教大学ライフセービングクラブ
■二宮ライフセービングクラブ
■辻堂ライフセービングクラブ
■葉山ライフセービングクラブ
■逗子ライフセイビングクラブ
■大磯ライフセービングクラブ
■玉川ライフセービングクラブ
■西浜サーフライフセービングクラブ
■湯河原ライフセービングクラブ
■サーフ90ライフセービングクラブ
■東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
■専修大学サーフライフセービングクラブ
■鎌倉ライフガード

Report

KANAGAWA STILL WATER LIFESAVING CHAMPIONSHIP 2006

第4回 神奈川県室内選手権大会レポート

11／19相模原グリーンプールに於いて第4回神奈川室内選手権が開催されました。神奈川県の大会は、回を増す毎に一般・ジュニアともに参加者数が増え、タイムテーブルは溢れそうになっています。

日本のライフセービング選手権大会の水準も近年目覚しく発展し、現在予選会が開催されています。この神奈川においても選手のレベルも上がり喜ばしい限りだと思っています。私たちの技術・体力をレスキューの為に使う…また、その高い技術を如何に使わないように安全に過ごすか。この室内選手権が勝つ喜びとともに、一緒に争った者を称え、自分自身の技術・体力の向上に役に立てる大会であったら良いと思います。

ジュニアたちも、この大会ではコース同士での争いではなく、自分自身に負けない、一生懸命に自分と闘うことの意味を考えてくれたら、きっとライフセーバーへの一歩が踏み出せたのではないでしょうか？

この大会で悔し涙を流している子供をみつけました。どこか痛いのかと尋ねると、いつもより泳ぐのが遅かったとの返事でした。来年は悔し涙でなく、きっと嬉し涙になっていることでしょう。

RACE RESULT 2006

日時：2006年11月19日　場所：神奈川県相模原市総合水泳場　一般種目：410名　オープン種目：27名　ジュニア種目：44名

100m障害物スイム（女子）

1	渡会明子	神奈川大	1'01"81
2	太田奈々	鴨川	1'8"61
3	秋元里江子	日本女子体育大	1'8"93
4	岡村綾乃	東海大CREST	1'10"1
5	三浦貴絵	東京女子体育大	1'10"22

100m障害物スイム（男子）

1	長井隆昌	早稲田大	'59"10
2	遠藤雅	柏崎	'59"34
3	鈴木伸也	茅ヶ崎	1'41"02
4	中島章	新島	1'55"35
5	石川亮	法政大	2'06"04

50mマネキンキャリー（女子）

1	青木麻佑美	日本体育大	'44"45
2	鈴木郁蘭	新島	'44"62
3	稲垣裕美	大竹	2'04"51
4	太田奈々	鴨川	2'05"15
5	森川美菜	東京女子体育大	2'05"89

50mマネキンキャリー（男子）

1	長井隆昌	早稲田大	'36"86
2	林昌広	湯河原	'38"40
3	中島章	新島	'38"62
4	入谷拓哉	西浜	'38"67
5	田中未来	日本体育大	1'46"09

100mマネキンキャリー with フィン（女子）

1	稲垣裕美	大竹	1'11"97
2	神荻明果	大竹	1'17"71
3	三橋香織	和田浦	1'17"90
4	原怜来	早稲田大	1'18"9
5	山田桃子	大竹	1'18"62

100mマネキンキャリー with フィン（男子）

1	稲垣裕美	林昌広	1'2"53
2	神荻明果	松本剛	1'5"85
3	三橋香織	寺村泰介	1'6"23
4	原怜来	鈴木伸也	1'7"2
5	山田桃子	須田邦彦	1'8"28

100m障害物スイム（女子：オープン）

1	田中翠	法政大	1'20"17
2	白柳いずみ	東海大LOCO	1'31"84
3	岡林佳里	法政大	1'33"56
4	三木芳子	専修大	1'39"65
5	岡田亜祐美	東海大LOCO	1'42"40

100m障害物スイム（男子：オープン）

1	高田祐矢	法政大	1'7"33
2	田中龍太	東海大LOCO	1'22"68
3	高橋邦佳	東海大LOCO	1'24"56
4	鯉谷光	日本大	1'29"69
5	小佐野雅也	東海大LOCO	1'32"81

チーム種目：4×25mマネキンリレー（女子）

1	大竹A	2'01"81
2	東京女子体育大A	2'14"21
3	日本女子体育大A	2'15"84
4	東京女子体育大D	2'19"16
5	日本体育大K	2'21"22

チーム種目：4×25mマネキンリレー（男子）

1	東海大CREST A	1'39"15
2	大竹 A	1'40"14
3	新島	1'41"02
4	日本大 A	1'55"35
5	大竹 C	2'06"04

チーム種目：4×25mメドレーリレー（女子）

1	大竹 A	1'57"78
2	日本女子体育大 A	1'59"59
3	東海大CREST A	2'04"51
4	東京女子体育大 C	2'05"15
5	日本体育大 L	2'05"89

チーム種目：4×25mメドレーリレー（男子）

1	早稲田大 A	1'43"91
2	国士舘 B	1'44"73
3	柏崎	1'44"94
4	日本体育大 A	1'45"30
5	新島	1'46"09

50mチューブ付スイム（ジュニア小3.4）

1	サイトウ ダイゴ	カワサキスイミング	38"50
2	マツザキ ナツキ	西浜	39"62
3	ウエノ マリン	西浜	40"09
4	カワグチ ミオ	カワサキスイミング	42"74
5	ツボイ ミズキ	カワサキスイミング	42"76

50mチューブ付スイム（ジュニア小5.6）

1	カシワギ ハルカ	湯河原	34"08
2	イノ コウタ	カワサキスイミング	35"05
3	サカモト カナコ	西浜	35"22
4	ツボイ ヒロユキ	カワサキスイミング	35"75
5	ウスイ ユウ	カワサキスイミング	36"02

50mチューブ付スイム（ジュニア中・男）

1	ノザキ ユウダイ	ＮＡＳ町田	28"95
2	サカタ タカヒロ	ＮＡＳ町田	30"03
3	アサクラ ツカサ	湯河原	30"16
4	サワキ タツヤ	ＮＡＳ町田	30"60
5	サカモト リク	西浜	31"56

50mチューブ付スイム（ジュニア中・女）

1	マツザキ ミズキ	西浜	
2	オノ リオナ	湯河原	
3			
4			
5			

一般女子　一般男子　オープン　ジュニア

※詳細の結果は神奈川県ライフセービング連盟のホームページをご覧下さい。

ちー先生のワールドレポート

今年の全豪選手権は、西オーストラリア州パースに会場を移し、3月20日～25日スカボロービーチにて開催された。ＪＬＡによる選手強化プログラムの一環として、フル代表チーム12名、U22チーム11名が出場。県内のクラブからは、遠藤大哉総監督（西浜ＳＬＳＣ）、フル代表チームに鈴木一也（茅ヶ崎ＳＬＣ）、長竹康介・植木将人（遊佐雅美（西浜ＳＬＳＣ）、堀部雄大（二宮ＬＣ）、林昌広・鈴木祐輔（湯河原ＬＣ）、山口公子（東海大クレストＬＣ）、U22チームには、渡会明子（神奈川大ＬＣ）、三木玲奈（東海大クレストＬＣ）、通訳スタッフとして西嶋智美（茅ヶ崎ＳＬＳＣ）、選手団本部スタッフ／コーディネーターとして相澤千春（西浜ＳＬＳＣ）が派遣された。

オーストラリア協会（Surf LifeSaving Australia）は、1907年に設立されて以来、100年にわたりビーチの安全を守り、社会に大きく貢献してきたその活動を讃えられ、オーストラリア政府は今年2007年を、Year of the Surf Lifesaver」と称し、記念切手や記念コインも発売され、年間を通し様々なセレモニーやイベントが開催されている。大会期間中に定例で開催される年間の功労者表彰パーティも、今年は盛大に催され、ＪＬＡ理事長・荒木雅信理事も出席しロン・ランキン会長にお祝いのスピーチと盾を贈呈した。

また日曜日の早朝に大会のメインエリアでは、この100年の間に不幸な戦争で命を亡くしたライフセーバー、及びライフセーバーとしての活動中に命を落としたメンバーひとりひとりの名前を所属クラブ名と共に読み上げ、その功績を讃え追悼するミサも開かれた。

Bフラッグス植木選手3位

パースへの航空機の事情で、ボードもスキーも日本から持ち込むことができないため、サーフスキーはサイズ調節可能の物を4艇新調し、ボードはレンタル使用。使い慣れたマイスキー／マイボードでの出場がままならないというハンディーがありながら、ＪＬＡ代表選手たちはそれぞれの種目において、世界でもトップレベルであるオーストラリアの強豪達と同じスタートラインに立ち全力を尽くした。

中でも上位入賞の期待がかかるビーチフラッグスでは、プレッシャーとの戦いの中、植木選手が堂々の3位、銅メダルを持ち帰ることができた。

渡会選手熱中症で脱水状態

メインアリーナで、ちょうど植木選手が決勝最後の3名に残れたことを観覧席の最前列で見届けていた午後の4時半過ぎ、サイレントモードにしておいた私の携帯電話がポケットの中でブルブルッと振動した。日本人選手のテントで待機している三浦ＪＬＡ事務局員から、昼頃から腹痛を訴えていた渡会選手の様子がかなりつらそうだという連絡だった。すぐにテントへ急いだが、歩けない状況だと言うことだったので途中ファーストエイドステーションに立ち寄り、医師にテントまで同行してもらった。

ステーションに搬送後、医師の診察を受けたが、熱中症による脱水症状であろうとの診断。症状がひどく、直ちに点滴と痛み止めの注射が施され、その後病院へ搬送されることになった。一時は脈拍や体温が極端に低下し、救急車に同乗していた相澤と三浦も、渡会選手には平静を装い笑顔で励ましながらも、内心ドキドキしてひたすら回復を祈るばかりだった。

病院での手当で徐々に元気を取り戻した渡会選手だが、残念ながら翌日のサーフレース決勝を棄権することとなってしまった。これもまた貴重な経験。悔し涙を次へのバネとして今後の活躍を期待したい。

ボランティアのサポート力

出場選手数は、約200のクラブから630名、400名余りのオフィシャルとボランティアスタッフ、大会会場もサーフボートエリアを含めると全長1.5kmに及び、各クラブのテントが所狭しと立ち並ぶ。場内放送や、各エリアでの召集、配布物等はもちろん全部英語。通訳として選手団と同行した西嶋智美さん（現地で合流した戸田泰史さん（九十九里ＬＣ）、ボランティアスタッフとして参加していた宮田篤さん（九十九里ＬＣ）の3名は、競技の進行状況や召集のタイミングなどの把握と伝達、使用器材のエリア間での移動に大奔走。連日炎天下でのサポートを務め大きな陰の力となっていたことを報告しておきたい。

「全豪を制すれば世界をも制す」と言っても過言ではないこの大会、強豪達に挑んだ日本人選手、QF（準々決勝）以上の結果は左表のとおりです。

フル代表	鈴木一也	OPENサーフレース SF
24歳以上サーフレースF	本多辰也	OPENビーチフラッグス 6位
	植木将人	OPENビーチフラッグス 3位
	中曽根麻世	OPENサーフボードレース QF サーフスキーレース QF
	鈴木郁蘭	OPENサーフスキーレース QF
	伊藤彩香	OPENサーフボードレース QF アイアンウーマンレース SF
	遊佐雅美	OPENビーチフラッグス 7位
	山口公子	OPENビーチフラッグス SF
	中曽根・伊藤	OPENサーフボードレスキュー SF
	中曽根・伊藤・鈴木(絵)	OPENボードリレー F
U22	井口明彦	U19サーフレース 12位
	長井隆昌	OPENサーフレース SF
	渡会明子	U19 サーフレース F OPENサーフレース F
	三木玲奈	U19アイアンウーマンレース SF
	勝俣開	OPENサーフボードレース SF

波乗りおじさん 潮の香り
Letter of Tide

幸せの星が意味すること。

ハワイと神奈川は、緯度の違いこそ多少はあるものの、海を介して隣り合わせといったら言い過ぎだろうか。1880年（明治時代初頭）、ハワイ王朝カラカウア王は来日して明治天皇と会談して、文化交流の持つ価値と海をまたいだ関係の大切さをともに確認し、日本からの移民労働者に門戸を開いた。

その後、横浜港からハワイに数多くの日本人（のちの日系1世）が期待に夢膨らませて海を渡ったが、現実のハワイの土地は痩せて荒れ果てたままで、その開墾作業は困難を極めたという…。

ホクレア号のミッション

それから約130年、ハワイで復元された古代遠洋航海カヌー『ホクレア（ハワイ語で"幸せの星"の意）』号が日本へ、現代のハワイの一部を支えてきた日系人への感謝の気持ちを伝えるために帆走航海を続けている。

きっと、この原稿がPIER1に掲載されるころには、日本の多くの寄港地で大歓迎を受けていることであろう。また2001年にハワイオアフ島沖で潜水艦と衝突して沈没した宇和島水産高校実習船『愛媛丸』の、亡くなった生徒の家族に慰問して、まだ癒えぬ悲しみをともに分かち合った後であろうか。

ハワイ協会と神奈川県支部との交流

特定非営利活動法人日本ライフセービング協会神奈川県支部は、今年設立10周年を迎える。ハワイ州ライフガード協会と神奈川県支部とは、平成11年5月に姉妹団体の締結をしている間柄である。このため設立10周年を記念して、ハワイから現役のライフガードをお呼びして、6月16日（土）～17日（日）に藤沢において『ジュニアライフセービング特別講習会』（仮称）を開催する運びとなった。

ハワイから海路でホクレア号が日本に初入港して、ハワイアンライフガードが湘南でジュニアライフセービングを初講習する。明治時代にハワイに渡って辛苦を重ねた我々の先祖である日系人が築いた実績と努力の賜物が、いまの交流を支えていると言えよう。

世界平和への貢献

海辺の安全普及活動に国境はない。また海は水を介してどこまでもつながっている。人を助ける者は人を殺めることをするはずがない。昨今、世界平和が強く叫ばれているが、国、人種を超えて、ライフセービング活動の草の根交流が世界平和に少しでも貢献することを願ってやまない。

青い惑星の地球は、本来、"幸せの星"であるはずだから。ボンボヤージ、ホクレア号の航海の安全を祈ります。

神奈川県ライフセービングは今年で10周年。これからも人命を救う大切さを、より多くの人達に広めて行く活動をしていきます。CPR講習会など一般の方々の参加もお待ちしてます。　KLF理事長 加藤道夫

ATHLETE VOICE

アスリートボイス Vol.02

ライフセービング競技への姿勢

先日行なわれた全豪選手権では、日本代表として参加した西浜の植木選手が、見事銅メダルと獲得しました。また茅ヶ崎の鈴木選手がサーフレースで決勝に進出するなど、みんなすばらしい活躍を見せてくれています。

これは、10年後の世界大会での総合入賞を目指して、日本協会が実施する代表強化プログラムの一環としておこなわれた海外合宿の成果であります。

今後も国内での合宿をはじめ、海外で行なわれるあらゆる国際大会、競技会に代表チームとして参加していく予定です。

こんな話をしていると、「私はパトロール中心だから」とか、「競技には興味ないです」などという声が聞かれますが、それは誤った見方だと思います。

ライフセーバーとして、おぼれている人を救助するのであれば、そのためにトレーニングを積むことは必要最低限のことではないでしょうか。確かにライフセービングは誰にでもできる活動です。しかし、救助活動をしているライフセーバーなら、体力や技術を身に付けることは絶対です。その為に競技会で競い合うことは必須なのではないでしょうか。

私はこれまでライフセービングをはじめてからずっと競技会に参加しています。それは、私が競技志向と言うことではなく、救助活動をするうえで必要だと感じているからです。

私は現在、PWCレスキューを積極的に取り入れていますが、このPWCはあくまでも道具でしかありません。もし故障してしまったら、最後には自分の体ひとつで救助しなくてはなりません。そのためにも自分を鍛えることは必要なのです。その手段として競技会に参加することは、ライフセーバーとして当たり前のことだと思います。

「競技に勝つために一生懸命トレーニングをし、自分を鍛える。そして、その勝利を得たとき、その鍛えられた体が、いつの間にか人のために尽くすことに繋がっていることがすばらしい。

だから私は一生懸命トレーニングをする。つまり、「競技のNO.1は、レスキューのNO.1である。」オーストラリアの偉大な選手の言葉です。この言葉を胸に、これからも競技に参加して行きます。

写真：菅沼浩（JLAオフィシャルカメラマン）

ジュニアライフセービング

今、海辺から環境教育を！

海に興味のある人、海が好きな人、環境教育に興味のある人…3月2日～4日までの日程で開催された「海辺の環境教育フォーラム2007」に、全国から80名を超える人が三浦ふれあい村に集まりました。

「なぜ『海辺』の環境教育なのか？」「環境保全にどのように貢献できるのか？」の2つの軸に日頃から取り込んでいる成果の発表や、事例紹介をし、各人が抱えている課題や疑問のヒントを探るのが目的なのです。

NPO関係者、学校教育関係者、ダイビング事業者、行政、一般市民、研究者学生等々、様々な立場の人たちが集まりましたが、今年は開催地が「湘南」、そして実行委員長を私が勤めさせて頂いた関係で、ライフセーバーやサーファーの参加が多くありました。

海や環境教育に興味がある人なら誰でも参加できるとあって、同じ釜の飯を食いながらのディスカッションは、世代や職業を超え、どこか合宿やキャンプのような雰囲気を持っています。今年で7回目を迎える同フォーラムは、全国各地、色々な場で活動している人が年に一度顔を合わせて情報交換する、ゆるやかなネットワークとしてすっかり定着しました。

実りある「海辺ラボ」の試み

今年の最大の特徴は、2泊3日の行程中、「海辺ラボ（特定のテーマで設置されるフォーラム内の研究室で、レクチャーやアクティビティ体験、ディスカッション等を行いながら、一つのテーマを深める場所の意味）」の活動に約一日半と、フォーラムの大半の時間が費やされたことです。

開催初日、相模湾でのシーカヤックや小網代の森自然観察会、和田長浜ビーチクリーンアップ等、施設周辺の自然の中でのアクティビティを通じて参加者同士が交流を深めた後は、「サンゴ礁保全のための環境教育（ラボA）」「子どもも大人も、もっと海へ（ラボB）」「海辺の教育活動の新しい可能性（ラボC）」という3つの分科会「海辺ラボ」に分かれてグループワークを行いました。

特に、来年2008年がICRI（国際サンゴ礁イニシアチブ）によって国際サンゴ礁年に制定されたことから、海辺ラボAにはとりわけ多くの参加者が集まりました。ダイバーをはじめとする観光客へのアプローチ、サンゴ礁地域での環境保全教育、都市部や遠隔地でのライフスタイル転換型の教育活動など幅広い議論から、最終日の全体報告会では数多くのユニークで具体的な提言が発表されました。

環境問題、珊瑚に注目集まる

その一部を紹介すると…。

①電力会社に協力してもらい、先月や昨年に比べてどのくらい節電が出来たかを請求書に示してもらう。それに応じてポイントが貯まり、エコポイント制などを導入する。

②サンゴ礁の解説員「サンゴレンジャー」の立上げ。

③一般を対象にした「サンゴ留学」。学生を対象にした「サンゴ交換留学」。たとえば昆布の海北海道と、サンゴの海沖縄の学生同士の交流やそれぞれの地域に滞在しあう。「サンゴ交換留学」。たとえば昆布の海北海道と、サンゴの海沖縄の学生同士の交流やそれぞれの地域に滞在しあう。

④インターネットからダウンロードできるような、オープンリソースの教材を揃え、提供する。特定地域の環境問題について、「遠隔地を巻き込んだ活動にするにはどうしたらいいのか？」、「環境教育の果たす役割は？」など、サンゴ礁をモデルケースに、今後干潟・藻場などへも発展できるであろう、興味深い考察など。

さらに今年初の試みとなったのは、各人が持ち寄った品々を参加者同士で競り落とすチャリティーオークション。売上金は各団体や個人が展示発表するポスターセッション「海辺の掲示板」と同時に、35歳未満の若手が応募した企画書の中でもっとも投票数の多かった人に渡されます。これは若手の活動を応援する意味のコンペで、初年度でありながら200点の品が集まり、売上金は10万円超え。第一回はOWS（The Oceanic Wildlife Society）の浪崎直子さんが獲得しました。

その企画は歩くサンゴ、けんかするサンゴなど、動くサンゴの映像を撮影し、サンゴ教育プログラムに組み入れようというものです。地球温暖化や海洋汚染が叫ばれ、サンゴの危機が強調されるあまり、動物であるサンゴの魅力が十分に伝わっていないことから、この企画を思いついたそうです。来年度は兵庫県の家島「母と子の島」でも開催が予定されており、底での上映会を目標に制作に取り組むそうです。県連盟のエコでも活用方法をアップしていきますのでお楽しみに。

ライフセーバーも意識向上を

環境教育は、学校教育だけでなく、地域や観光業、レジャーなど幅広い分野や団体が連携して展開しています。しかし、陸域に比べると、まだ海域の施設やプログラム資料などが不足しているのが現状です。日本、そして世界に繋がっていることを教えてくれる「海」。このフォーラムのように、立場や地域を越えての情報交換や連携が、海辺の環境教育の新たな発展の礎になっていくことが期待されています。

以前に比べライフセーバーの参加も多くなってきましたが、まだまだ意識が低いようです。私たちがライフセービング活動が出来るのも、このかけがえのない「海」があるからに違いありません。この素晴らしい海洋環境を次世代の子どもたちに繋げるべく、地道な活動を各地域で共に展開して行きましょう。

HAWAIIAN LIFEGUARD PRESENTS
2007 KLF設立10周年記念ハワイアンライフガードによる
ジュニアライフセービング特別講習会
■日時：2007/6/16～17
■講師：Dennis Sallas
■対象：ジュニア指導者（16日・17日）　ジュニア（17日のみ）
■内容
16日 ハワイアンライフガードによるジュニア指導者セミナー
17日 ハワイアンライフガードと遊ぼう！
■場所：神奈川県湘南サーフビレッジ
■参加費：1,000円（保険料含む）昼食（各自ご用意下さい）
■詳細：県連盟までお問合せ下さい。電話 0466-34-2243

2008年は国際サンゴ礁年。ご存じでしたか？

環境教育フォーラムの海辺ラボはとても有意義でした。

KLF理事 座間吉成

あなたのライフセービング情報をお寄せ下さい。 kanagawa@lifesaving.ne

度の資格認定講習会実施の報告

資格認定講習会を藤沢市鵠沼海岸及び、ッジにて開催しました。

ック講習会(4回)58名

実施日	男性	女性	合計
、11、16、17、18	10	7	17
、22、23、24、25	12	3	15
2、8、9、15	5	8	13
～10月1日	10	3	13

ンス講習会(1回)19名

実施日	男性	女性	合計
7、13、14	6	13	19

習会(3回)68名

実施日	男性	女性	合計
	5	6	11
	17	10	27
	23	7	30

習会(1回)27名

実施日	男性	女性	合計
	21	6	27

合計 172名

年度講習会スケジュール

サーフ・ライフセーバー(5日間)
000 会員:￥21,000

実施日
土)、10(日)、16(土)、17(日)、24(日)
(金)、24(日)、29(金)、30(土)
(土)、16(日)、28(金)、29(土)、30 (日)

サーフライフセーバー(4日間)
000 会員:￥21,000

実施日
(土)、22(日)、28(土)、29(日)
0(土)、21(日)、27(土)、28(日)

ビング資格更新講習会 ￥8,840
アドバンス・ウォーターの各資格

実施日
日(日)
日(日)
1日(日)

(CPR)講習会 ￥9,840

実施日
日(日)
日(日)
日(日)

べてサーフビレッジ。詳細は事務局まで。
(CPR:心臓マッサージと人工呼吸)講習会は、加できます。大切な方を守るためにも、是非

私とライフセービング

ライフセービングに関わりだして、はや30年。
藤沢に住んでいた時分に、辻堂海浜公園プールでライフガードのアルバイトを行ったことがライフセービングとの出会いでした。その時の良き先輩方に影響され、赤十字の水上安全法指導員資格を取得したことで更につながりが深くなりました。
偶然、日本のライフセービングの変革を迎えた時期に関わり始めた事と、日本赤十字社神奈川県支部に就職したことが重なって、様々なライフセービングの出来事に立ち会うことができました。
ライフガード大会への参加、第1回目の豪日交流基金によるオーストラリアでのライフセービング研修、SURF90での、ライフセービング事業の実施、国内で初めて行われた国際大会の運営協力、全日本選手権で40歳の時ビーチフラッグスに出場しベスト8に残ったこと(かなり自慢…笑)、水上安全法教本の改訂に関わったこと等々。
振り返れば色々な出来事があり、その都度たくさんの仲間ができ、今ではその仲間たちと共にライフセービングは切っても切れない存在となっています。
ライフセービング活動は海やプールで事故を防ぐことだけではなく、生活の中で起きる水の事故を少しでも防ぎ、そして無くして行くための活動で、どんな形でも少しの時間でもいいから、多くの人達が関わっていくことが大切です。
50歳を過ぎた今、これからも無理せず少しずつ、そして一生関わっていきたいと思っています。
現在、神奈川県ライトセンターという視覚障害者の情報提供施設に勤務し、時には視覚障害者やボランティアの方々と共に心肺蘇生法や着衣泳を行い、夏期には葉山の海で活動しています。
ライフセービング活動に関わっている学生の皆さん、多くの仲間を得て楽しい社会人生活を送るためにも、1日でも長くライフセービングと関わり続けていかれるよう、心から願っています。

工藤孝志(葉山ライフセービングクラブ所属)

CPR(心肺蘇生法)講習会のすすめ

神奈川県ライフセービング連盟では、藤沢市、湘南海岸公園にある「サーフビレッジ」を拠点に「ベーシックサーフライフセーバー講習会」「CPR講習会」「更新講習会」など日本ライフセービング協会(以下、JLA)公認資格認定講習会を展開しています(昨年度の統計 参照)。
サーフビレッジは、60人程度収容することのできる講義スペース等備え、講習会を実施するには最適な場所であります。
さて、皆さんは2005年暮れに世界的に心肺蘇生法の技術改訂が生じたのはご存知ですか。その改訂に基づき、日本においてもガイドラインの策定が行われました。
このガイドラインに沿った講習会カリキュラム・講習内容にて、今年度４月より、講習会が展開されています。
主な内容の変更点は、「効果的な心臓マッサージ(胸骨圧迫)を強く(４～５cm程度沈むまで)、速く(1分間に100回のテンポ)、絶え間なく(30回連続)」ということであります。
事故や病気で急変された方がいた時、心肺蘇生法等の応急手当を多くの方が施すことができる、安心して過ごせるが望ましい社会です。あなたの目の前で何時、起こるかわかりません。多くの方々の資格認定講習会参加をお待ちしております(今年度予定表 参照)。愛する人を守るためにも・・・。

ライフセービングクラブ紹介

湯河原ライフセービングクラブ

私たち湯河原LSCは現在、約40名の社会人と、約25名の生が協力して活動をしています。学生メンバーは東海大国士舘大学、日本女子体育大学、順天堂大学、神奈川大学大妻女子大学、慶応義塾大学、関東学院大学などから集まています。
夏は湯河原町からお借りしている宿泊施設を利用し、湯原海岸と海浜公園プール、東台小学校プールの計３ヶ所監視業務を行っています。温泉街として有名な湯河原町ご厚意で毎日入浴させて頂いている温泉『こごめの湯』は私たちにとって最高の癒しの場です。
湯河原LSCの特徴のひとつは、ジュニアライフセーバー育成に力を入れていることです。湯河原町内にある湯河スポーツクラブと提携し、地元の小・中学生の子供たちを対象に、現在は約20名のジュニアメンバーが活動しています。他のクラブを見ると、冬季のジュニアメンバーの活が少なくなりがちですが、私たちのクラブでは海上保安見学や、ハイキングなどのイベントや、定期的な海やプーでの練習を、年間を通して行っています。
もうひとつは、オーストラリアのWANDA SLSCと姉妹提を結び、クラブ設立後の間もない頃から、お互いのメンバがクラブへ行き来し、交流を深めていることです。近年で2年に1度、ジュニアメンバーの交流も行っています。
夏の監視活動以外では、練習会の他、ドラゴンボート大会場や、湯河原町のマラソン大会に参加したりと、様々なイントを通じて湯河原町との交流やメンバー間のコミュニーションを図っています。
昨年、クラブ設立10周年という節目の年を迎えました。まだまだクラブとしての歴史は浅いですが、これからも域と密着し、日本のライフセービング界のモデルとなるうなクラブを目指し、海に携わる方々だけでなく、たくさの方々と水辺の事故ゼロを目指して活動していきたいといます。

湯河原LSC 友光孝

神奈川県ライフセービング連盟総会

本年度の神奈川県ライフセービング連盟総会を3月11藤沢市サーフビレッジにて開催しました。悪天候の中、加20クラブのうち11クラブ,委任3と連盟理事の参加によ前年度の事業報告および本年度の事業計画の議案承認がなわれました。総会後の懇親会では、会費の問題などを意交換しました。

三洋物産は日本ライフセービング協会のオフィシャルパート

GUARD

もっと地域に貢献したい、もっと多くの方々に私たちの活動を知って頂きたい。そしてあなたにもライフセービングという活動に参加して頂きたいという思いから、情報誌「ピア01」を発行しています。

特定非営利法人
神奈川県ライフセービング連盟

〒251-0046
神奈川県藤沢市辻堂西海岸3-1-1辻堂海岸ビル
TEL 0466-34-2243
FAX 0466-34-2257
URL www.lifesaving.ne.jp
Mail kanagawa@lifesaving.ne.jp

通巻9号 ■発行：神奈川県ライフセービング連盟事務局 ■発行日：2007年 5月24日 ■発行人：加藤道夫 ■編集人：遠藤恵子